婦人衛生雜誌

大正七年十一月二十日發行

第三百四十號

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雑誌

第三百四十四號目次

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



氣のつく頃には既に重き病の二三

醫學士　樫田十次郎述

今日は田村令夫人から御紹介になつて光榮ある此會でお話を爲ることが出來ました。

私はいろ〳〵下らぬ事を雜誌に書いて居りますが皆さんの前でお話致すと云ふことは殆んど無いので話下手であります。それに醫者は兎角人樣の前でお話する時に、平生饒舌り付けて居る汚い言葉を皆さんにお聽かせすることが平氣で出て來ると云ふやうな傾がございますので、成るべく注意は致す積りでございますが、それは御辛抱を願ひます。

「氣の付く頃には既に重き病の二三」と云ふ表題を掲げてありますが、內容は既に皆樣も御承知のことで、度々斯う云ふ風な會のお催しがあるのでございますから、今日お耳に入れる事が決して新らしい事ではないと思ひますが、併し同じやうな話でも、方面を變へてお話すると又、さうかと云ふ風な氣のおつきになる事もあらふと思つて斯う云ふ題を掲げた譯でございます。

氣のつく頃には重き病の二三と申すと、慢性の病氣は殆んど總てさう云ふ風な性質を有つて居ります急性の病氣なら熱發があるとか、痛いとか云ふことがありますから、直ぐ病と云ふことが氣がつきますが、慢性の病氣であると、解つて來るのが――素人の氣の付かれた頃には既に重くなつて居つて、醫者も手の付けやうがないと云ふことか屢〻ございますそれであるから、素人の方でも早く氣が付いて癒さ

れるものなら早く治して、又癒せぬものにしても重くならないで、成るたけ苦痛を少くするやうに注意が出來るものなら、注意致したいと思つて居ります。

女の呼吸器病の初期

一般にある病の中でどう云ふ病がそうであるかと云ふと先づ肺の病で、是は何時の間にか知らずに罹つて居つて解る時分には治療を講ずるに骨が折れる咳が出るとか又痰が出るとか、盗汗が出るとか云ふやうなことは皆さんも御承知のことですから、こゝには女の方に關係の有る注意、其内でもお孃さんなぞのある方に申上げたいと存じます。殊に肌の綺麗な、色の白い人であるとか、生え際に後れ毛の生えて居る人であるとか、又毛深い――大體女の人は男子のやうに肌にさう毛が生えて居らないものですがそれが細い毛が體に澤山生えて居るやうな毛深い女の方なぞが割合に肺病になる方が多い。それからもう一つは、女の方は月經の前に頭が痛いとか、氣持が惡るくなるとか云ふやうな事はありふれたことでありますが、月經の前に熱が出る人があります、と云つても其熱は僅か三十七度一分か二分位で、御本人も唯さう云ふ時であるから體の具合が惡るいと云ふだけの感を有つて居られるだけで、熱があると云ふことは感じて居らない方がある、唯計つて見ると熱が出て居ると云ふことの分る時があります。で熱が三十七度二三分から精々五六分位しか出ない。私共醫者の方では、他の病氣で以つて測かつた溫度表を付けて居りますと、平常は熱が無いが、さう云ふ月經の少し前に熱が昇がると云ふ人を見出す事があります。前申上ました生際に後れ毛が生えて居る人とか、肌に細い毛の生えて居るとか、月經の前に熱の少し出ると云ふ様な、斯う云ふやうな方は早く氣を付けて御覧になつたら或は餘程輕い間に病を見出し、又は防ぐことが出來るかも知れません。で必ずそれがあつたからと云つて病氣があると云ふのぢやございませぬ。

女の方の小水檢査

其の次に申上げますのは、私は女の方で苦い經驗を有つて居ります。醫者の所に來て小水を檢査して上げる時非常に厭やがる方があつて、今日は出ませんから今度持つて參りますと云ふ。其次に來た時に今日は忘れて仕舞つたとか云ふて、何う云ふものか小水が出ない譯がないのに、何時も一時免れに免がれて居る方がある　さう云ふ風にして遂に小水を檢ることが大變困難だと云ふ例がある。さう云ふやうな事は他にも聞いて見るとちよい／＼ありますが女の方で能く頭痛持の方がある。さう云ふやうな方ならば小水を檢査すると迂濶りすると腎臟炎が起つて居るのがございます。で小用の調べと云ふことはどう云ふ人が殊に注意しなければならぬかと云ふと體の何處にでも構はない、水氣が來て足が腫れるとか、それから又朝起きた時なぞに手が幅つたくて、手を握ると氣持が變な人や、指環のかたく感ずる人や、それから眼瞼が腫れぼつたくなるとか、顔に水氣が來るとか云ふ具合になる人は小水を時々檢査して貰うと宜しい。それでなくとも、御自分で健康だと思つてお出でになつても、小用と云ふものは一年に少くも二度は診てお貰らひになる方が宜い。年を取るに從つて腎臟に關係有る病が起ると云ふことは屢々經驗するところで、殊に尿に蛋白が行つた場合には度々見てお貰らひになる方が宜しい　又もう一つは咽喉が腫れた後、殊に此頃流行する扁桃腺の腫れる病に罹つた後に、腎臟炎が起り易いので、さう云ふ腎臟病に關係があるやうな時分には特に尿を檢査する必要がある。で尿を醫者の所へ届けるのに蛋白の方を調べて貰ふのには、それほど時を選ぶ必要もないが、蛋白でない糖分の方を調べて貰らふのには輕い時には尿の中に出たり出なかつたりすることがありますから、持て來るには大抵御飯を召上つてから二時間乃至三時間の間の尿を持て來るのが調べるのに都合が好いのであります。

子女の神經衰弱

次に私の能く取扱つて居る腦の惡るい人に就て申

します。殊に女學校中學校なぞに行かれる方の父兄に致しましても、其お子さんが神經衰弱を起して居るにも拘はらず、それを知らないやうなことが往々あります。

此神經衰弱なるものは別段熱があるのでもなければ、お腹が痛むのでもなく、御飯も普通に食べて居つて、然かも腦が惡るいと云ふのであるから、側の人も屢々見逃し易い。年を取つた方があつてすらさうですから、下宿屋などに居る獨立した若い方なぞであると尚更自分に氣が付かず、重くなる迄知らずに濟ませる事があります。

一家の主人なら自分の意見で勝手に休養する事も出來ますが、中學校あたりへ行つてお出でになるとなか／＼さうは行かない。殊に良い家庭に育つたお子さんには、家庭の方であまり氣を付けて却て病を重くすると云ふことも澤山あります。實例の一を申上ますと、或る有名な方の御子息で中學の五年まで行きましたが、どうも此頃學校の出來が惡るい、是は怠けて居るに違ひないと云ふて頻りに勉强をさせやうとするが、御本人は勉强もしないで唯ひつくりかへつて居ると云ふ風であるので、家庭敎師でも傭つてミッシリ行らせたら宜いだらうと云ふので、敎師を賴んで益々勉强させた——このひつくりかへつて休んで居つた時分にはまだ／＼病が重くない——それを徒にひつくりかへつて居るやうぢやいかぬと言つて、其處の家では不幸にも監督が行屆いて、家庭敎師を傭つて無理に勉强さした爲めに、非常に重い神經衰弱になり、其年は五年生で、卒業するのが明る年に卒業し、其年に高等學校の入學試驗を受けやうと思つてだめ、漸く其翌年高等學校に入學しました。然し高等學校に入つてからも既に頭が惡く、思ふやうに勉强が出來ない、でとう／＼學校にも行かずに遊んで、もう既に十年位遊んで居つて働くことも出來ないと云ふやうな方がある。斯う云ふ風な實例は澤山あつて、熱もない、お腹の痛みもないので、病氣と認められないものですから、却て父兄の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

監督から病を重らせると云ふ傾があるのです。
然らばどう云ふ風にして早くそれを見出して其不幸を救つてやることが出來るかと云ふに、それは平常の學校の成績表なぞにも氣を付け、又本人の訴で此節はどうも眠むくつていけないと云ふやうなことを言つたら、其場合が先づ一番輕いのであるから、眠むいと言つたら能く臥かしてやれば癒るのでありますが、それが通り越すと今度は大概眠むられぬと云ふ時代になる。必ずさうとは極りませぬが、多くの場合さうである。眠むられない、牀に少し遲く入つても、どうも眠むられない。二時になつても三時になつても寢むられないで、曉方になつて漸くうとうとする、切角眠つても夢が多いので、翌くる日は茫然して居る、學校の課程も頭に入らぬと云ふやうな訴があつたら餘程注意をして、それから學校の方でも一度位成績が惡かつたと云つても、其場合に間違つて怠けてはいけない、もつと勉强すれば出來ると云ふやうな間違つた方針を與へてはいけない。今度それを越すと、其次には晝も寢むたく、之れに反し夜も碌々寢られないやうな風で、茫然して、起きて居るのか寢て居るのか分らないやうになる、さう云ふやうな時代になると癒るものも治らない。癒すにも骨が折れる、醫者に掛けても癒りが惡い。であるから眠られないと云ふ時代にならぬまでに氣を付けて上げなければならぬ。

それでどう云ふ風にして素人療治をして癒して行くかと云ふに、早い時代であつたならば輕い運動をさせるのも宜しい、運動は何の位な運動が宜いかと云ふと、それは一々申上げられませぬが、疲れない範圍の運動が宜い、重くなつたら運動はいけぬ。それから又風呂に浴ることが割合に疲勞の恢復が良い風呂に入るのは必ずしも洗らふと云ふのが目的でない。中に入つたり出たりして、風呂の流しで唯脚を伸ばして居つて宜い、出る時には水ですつかり拭いても良い、淡水の中に入つても良い、寢る前に比較的ぬるい湯に入るのも眠りをよくする。それからお

茶の良いのや、咖啡を飲まぬやうにする、ところがあまり頭が茫然していけないからと言つて、試驗前なぞになると良い茶や紅茶を飲むとか、良い咖啡なぞを飲んだりする事があるが、頭の惡るい人でなければ試驗の前なぞに一度や二度さう云ふことも差支ないが、頭の惡るい人がそんなことを行ると益々頭が惡くなつて、神經衰弱の過激なものが起る。肺尖加答兒のある人或は胃の擴張のある人、鼻の惡るい人、近頃では眼の惡るい人、卽ち近視眼があつたり或は亂視があつたり、眼に故障があれば神經衰弱を起こすると云ふ――勿論是が唯一の原因であると云ふ譯ではないが、さう云ふ風にいろ〳〵の故障からも腦が惡るくなる。で體が惡るくなければ宜いとしても、過激な勉强をしないやうにする。併し過激な勉强と云ふことが必ずしも腦を惡くするとは言へない、唯杞憂を懷いて勉强すると云ふ風でなしに、自分が非常に興味を有つて勉强して居る時には可なり過激に行つても障りがない。

ヒステリー

次に女の方が神經衰弱のやうになつて居るのを「ヒステリー」と云つて居られますが、世間の方は、女の人が無暗に泣いたり怒つて見たり或は袖を裂いて見たりするやうな人を見ると直ぐに「ヒステリー」と考へて居られますが、「ヒステリー」と云ふものはさう云ふ風なものではありません。それは多くは矢張女の神經衰弱であつて、「ヒステリー」と云ふのは男にも女にもある病ですが、「ヒステリー」の事は今日は略します。

麻痺性痴呆

次に麻痺性痴呆と云ふものは恐ろしいもので、それは若い者よりも年を取つた方が多い。是は若い時に自分が惡性の病氣に罹る、卽ち黴毒に因つて來るので、其毒を充分に癒さずに置くと、或は知らないで打遣つて置くと、それが將來になつて腦に故障を起すやうになつて來ますが、斯う云ふ病になると段段と數の觀念も惡くなつて十二と十二とか、もつと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

簡單な六と八とを乘けると云ふやうなことも出來なくなり、甚しきは三と七と乘けるとか二と三と乘けると云ふやうなことも出來なくなる、詰り數の觀念が鈍くなり、尙場所の觀念――自分の宅又は自分は今何處に在ると云ふことを知つて居らない或は時の觀念――いまは何年の何月何日とか、自分が生れた月日も覺えて居ない、自分の生れた干支も覺えて居ない。西か東か分らないと云ふ風に場所、時、數の觀念が總て無くなつて仕舞ふ。さうして男の人の多くは誇大妄想を起して、自分の家は非常に金が餘計あると云ふやうな考が起つたり、反對に或る場合には詰らぬ事に對しても、是では自分の家が立ち行かないと云ふ風に心配したり、女の人であれば針一本失くなつても心配して行くやうな場合がある。斯う云ふ風な病の原は他の病氣からも來るやうに考へて居つたが、此頃の調べに據ると、皆黴毒の爲めに起こるので、古い黴毒から來る。さうして此黴毒なるものは、從來は何か特徵があつて傳染るやうに思つて居りましたが、必ずしも體に不潔な物が出來ないでいろ〳〵眼に見えないでも知らぬ間に傳染るやうなことが能くあるので、其爲めに知名な人でも立派な頭を有つて居つた人であるにも拘はらず、馬鹿のやうに暮し或は誇大な事を言つて、他人に迷惑を懸けると云ふやうなことを行る。斯う云ふやうな病は毒を受けてから十年以後に起つて來ると云ふ非常に怖ろしい病でありまして、毒を受けたら早く治療するより此病の豫防法はない。毒を受けてから十年も經つて其病が起つて來た時分には特に治療をしても效能が僅かで病を止むると云ふ位に過ぎない。

其外尙ほ慢性の病のお話をすれば幾らも表題に適する材料がございますが、今日は是だけで終りに致します。

叢談

感冒の豫防法

醫學士　丸茂猛述

之れから漸々寒くなつて感冒の季節となりました。感冒は萬病の源と昔から申しますが、誠に其の通りで、平素健康な人なれば玉子酒でも飲んで布團を被つて寢て居れば其れで癒つて仕舞ふ事もありますが之れが體質の弱い人或は子供でありまするど、單に鼻加答兒や扁桃腺や咽喉加答兒位ぢや中々濟まぬ事があります、感冒から來る續發疾患は實に恐るべきもので、ふとした感冒が源となり、之れから腎臟炎や肺炎、肋膜炎或は腹膜炎などを惹き起す事は屢々ある事で、大人でも體質の餘り丈夫で無い人が度々感冒を引きまするど遂には結核になる事が多いのであります、肺結核の誘因は多くは、人の至つて粗末にし易い感冒であります、明治四十三年から大正六年まで滿十ヶ年に於ける日本の結核死亡數は一年平均十一萬强で、診斷書に結核と明記せられざる結核死亡者を數ふれば優に二十萬を超ゆるといふ統計であります、全體人間の身體には惡い黴菌などが這入つて來ても、其れが少數である場合には、之れを殺して仕舞ふものが血液中に含まれて居るのでありますが、それが感冒を引いた時には著しく減少する換言すれば身體の抵抗力が著しく減退する、感冒が萬病の源となる理由は玆に存するので、平素健康を誇つて居つた人でも、感冒が慢性となつて咳嗽でも長く續いて居りますと種々なる餘病を起し易くなります。

今若し肺結核に罹つて居る人が感冒を引きますると、敵は我が防禦の虛となるに乘じて結核の病竈は周圍に擴がり　其の經過は屹度惡くなる。醫者が結核患者の治療に際して、若し冬期であるならば、先

ず第一に感冒を引かぬやうにと御注意をするのは病竈の擴大による衰弱を恐るゝがためで、患者の方では只服藥丈けで全治したいと希望するのは如何にも尤も至極の事でありますが、遺憾乍ら現在の醫學の程度では、直ちに其の希望を滿たす事は未だ出來ないのでありますから、本末顚倒とならぬやうに、服藥やら榮養療法よりも先づ第一に感冒を引かぬやうにと御注意をするのであります。

扨感冒の原因は之れを大きく別けて二ツある、其の一ツは皮膚が寒氣に觸れて居つた結果として體溫が餘計に奪はれ惡寒、發熱、頭痛などを起すもので之れは寒中薄著で居たり、或は裸體で居たり、或は濡れた衣服を著て居るやうな時であります、も一ツは昔から風邪を引くと言ふて居る通りに、冷たい空氣を吸ひ込むために鼻腔、咽喉、氣管枝などの粘膜が侵さるゝ場合で之れが感冒の原因として最も多いのであります、冬期は空氣が冷たい、殊に其れが乾燥して居る時は呼吸器粘膜を乾燥し、次に刺戟して炎症を起し、輕きは鼻加答兒、咽喉加答兒として嚔が出たり、水鼻汁が流れたり、輕咳をしたり、又重きは氣管枝加答兒となりて咳嗽を頻發するに至り、甚だしきは肺炎、肋膜炎を起すものであります、感冒から來る續發疾患俗に餘病なるものゝ恐るべき事は既に述べた通りでありますが、縱令空氣は暖かであつても其れが乾燥して居るものを一定時間吸入すれば屹度咽喉を痛める、小供が鼻風邪を引いて緩いて咽喉を痛めたといふ時は、其れは室內空氣が乾燥して居つたゝめである、眞赤になつたストーブの附近に十分間も立つて居つて御覽なさい。大抵の御方は咽喉が乾燥して咳嗽をしたり咯痰を吐いたりして御本人は「少し煙草を喫い過ぎて」などゝ言ふて居るが、之れは煙草を喫はぬ人でも同樣である。

日本の氣候は春の半ばより夏の終り頃までは世界に比類のない程濕氣が多い、之れは日本が四面海を繞らす島國であるために、氣溫の上昇と共に海上に發生する水蒸氣が空氣と共に押し寄せて來るため

であります、從て夏期は非常に蒸暑い、彼の「ピアノ／＼の様なものも此の濕氣のために、本當の音が出ないと「ピアニスト」は謂ふて居る、之れに反して秋の初めから冬の終りまでは又世界に比類のない程乾燥する乾燥の最も强いのは十二月と一月とで、一日中では晝よりも夜の方が乾燥が著しい、日本で冬期に濕氣の最も强い所は北海道の南端で(比濕八〇%)之れは「オコック」寒潮が迫つて暖潮と衝突して濃霧を生ずるためであります、之れに次で濕氣の多い所は裏日本海一帶であります、私も東北生れでありますが、東北人のズー／＼辯は、冷たい空氣を口腔から吸入して咽喉を痛めぬやうにとの人間の本能から來たものであります。

身體の丈夫で無い人即ち抵抗力の弱い人は、この感冒を豫防するために溫泉地へ避寒する、避寒といふ事の本來の意義は水蒸氣を含んだ暖かい空氣を吸入する事で、小兒科専門醫は、人工的にこの避寒地を病院内に作つて小供の感冒を治療して居る、それは硝子戸で鎖め切つた一室内の空氣を適當に溫めて同時に適當なる水蒸氣を含ましめて、其の中へ子供を抱いて這入るか或は其の中で暫時小供を遊ばせて置くのである、さうすると輕い氣管枝加答兒位ならば大抵は二三回で癒つて仕舞ふのである。

之れは自然療法として最も尊重すべき療法で、其の效果は單に小供許りでなく、大人でも同樣である之れを小さくした一時的のものが、所謂在來の吸入器で、「アルコール」で湯を沸かし、溫かい水蒸氣を噴出せしめて、其れを吸入させたもので、此の際室内空氣の溫度とか室内全體の濕度などは全く眼中に置かれなかつたのである。

身體の弱い人で感冒の豫防法は充分に知つて居ても、避寒の餘裕が無い人もある、餘裕があつても業務上の都合で一寸出掛けられぬ人もある、殊に抵抗力の弱い子供は大人のやうに簡單に汽車旅行は出來ない、之れ等の人々はよく注意をせねば風邪を引き易い許りでなく、一度風邪を引きまするど健康者の

やうに容易くは恢復しない、前に述べたやうな餘病を惹き起し易いのである。

斯かる人には如何にして轉地もせずに感冒を豫防すべき？又は治癒せしむべき？之れが私の御話しの要點であります。

冬期の寒氣に對して吾々は先づ皮膚が冒されぬやうに、換言すれば體溫を外氣に奪はれぬやうに衣服を著る、衣服を著るといふ事は溫の傳導力の尠ない物質で身體を包むといふ事で、熱傳導力の最も尠ないものは空氣であります、空氣を澤山に含んで居るものは保溫力の最も大なるもので、冬期に毛織物や綿の入つた衣服、早く言へば容積に比して重量の輕いものが喜ばれるのは實にこのためで、如何に健康な人でも「力士は裸體で風邪引かん」とまでに皮膚を鍛煉するに非ずんば、寒中裸體の行列は出來ない筈のもので、寒中は誰れでも其の人々の體質により又各自の職業により、餘り寒く感せぬ程度に相當に厚著をせねば屹度風邪を引くのであります、其の次には呼吸器の冒されぬやうに室溫法を講ずる、室溫法などゝ申しますると、いやに固苦しく聞こえますが室內空氣を溫める事で之れにも種々なる裝置がある小は一室用の安火、火鉢、炬燵或は瓦斯「ストーブ」より學校などで用ふる石炭「ストーブ」に至り、大は一家屋全體を同時に溫むる熱氣、熱湯或は蒸氣傳達法などがある、今其れ等の一ッ〳〵に就て衞生上の利害やら經濟上の損得やらを詳說する事は略しますが其の熱源は重に燃燒作用で燃料は木炭、木材、石炭「コークス」或は瓦斯などである、燃燒によらざる熱源は電氣丈けである、然し日本で室內用となるものは重に木炭で、瓦斯、電氣が之れに次ぎ、少し大きな部屋では石炭、「コークス」、瓦斯などが先づ燃料としての通り相場である。

之等材料の燃燒によつて室內空氣の溫度丈けは高まるが、それと同時に空氣を一層乾燥せしむるがために、如何に塵埃が飛散せぬやうに注意しても、又有害瓦斯の誘導法に完全を期しても、矢張り呼吸器

粘膜が刺戟されて前述の不快なる症狀が起つて來る故に空氣を濕めると同時に、之れに適當なる濕氣を與ふる方法を講せねば、折角高價なる燃料を費しても、何等の所詮が無いのみか、却て咽喉を痛めたり、或は時に燃燒副產物のために更に室內空氣を汚染して仕舞ふやうな事もある、「ストーブ」でも焚く場合には水盤でも金盥でも何でも良いから必ず蒸發裝置を備ふべきである、殊に日本室內で瓦斯「ストーブ」を使用する場合には是非共蒸發裝置が必要である、瓦斯「ストーブ」は輕便といふ點から室內用として大分用ゐられて居るが、之れに蒸發裝置を具備して居らぬならば我輩大に感服せない、全體室溫法の要件としては、溫度が軟かで、室內空氣を乾燥せしめずに、且つ有害なる燃燒副產物が非常に尠ない事である、瓦斯の燃ゆる溫度は炭火などよりは非常に強い之れは湯を沸かして見ても直ぐ解る、從て室內空氣を乾燥せしむる程度も炭火などの比では無い、況んや瓦斯の燃燒する部分に石灰を置いて發溫面積を大ならしむる事までは考案しても、此れと同時に室內空氣の乾燥を防ぐ大切な裝置を缺いて居るからである。

日本では昔から火鉢に鐵瓶、昆爐に藥鑵が附き物で、之れを室內空氣の乾燥防禦裝置と考へて否唱へて居る人もあるが、これは甚だ淺薄な觀察で、鐵瓶や藥鑵は實際に於て決して蒸氣發生の目的に使用されて居ない、といふのは小供や主人が感冒を引いた時に、病人の室で眞赤になつた炭火の上に、鐵瓶や藥鑵の蓋を取り放して熱湯を沸らかして置くのを見受ける事は甚だ以て尠ないからである、鐵瓶や藥鑵は矢張り湯沸かしの道具で、湯が沸けば何かの目的に使用せられ、其の後へは冷たい水が注加されるのである。

以上述べ來つたやうに、體質の弱い人でも冬は室を暖かにして適當の水蒸氣を含ましむるやうに注意すれば、風邪は引かずに濟むのであるが、之れは身體の利かぬ老人とか、乳兒とか、乃至病弱の小供丈

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

けに望み得べき事で、小供も餘り大切にし過ぎると一寸外に出せば直ぐ風邪を引くといふやうな抵抗力の非常に弱いものになつて仕舞ふ、之れは讃めた話では無いが、さればとて如何なる寒暑に遇ふも聊かの障碍も受けぬといふやうな身體を造る事は、吾人の希望否理想であつて、言ふは易けれど行ふは最も至難の事で、それに到達する事は殆ど不可能である大人でさへ風邪を引かぬやうにと、能い加減に注意し乍らも、其の人々の體質によつてつい風邪を引くのである、況んや小供の風邪は尙ほ然りである、

玆に於てか風邪を引きさうと思はるゝ時卽ち空氣が冷たくて乾燥して居る時、この時は鼻腔粘膜の神經末梢が冷氣に刺戟せられて嚔が出るとか、水鼻汁が出るとか、或は咽喉や氣管の粘膜が乾燥して咳嗽が出るとか、頭痛がするとかいふ時で、この時は室內を溫めて適當の濕氣を含ましめ、以て風邪を引かぬやうに豫防する事が轉ばぬ先の杖で、若し又既に風邪を引いたと思はるゝ時、卽ち小供なれば咳嗽をするとか、大人なれば頭痛、惡寒などを感じた時には、其れが眞正の風邪とならぬ內に速く癒して仕舞ふ事が最も肝要な事であります、而してこの豫防法と治療法とは決して別のものではありませぬ、

醫者は患者に接して風邪が少し進んで居つた場合卽ち呼吸器粘膜が加答兒を起して居る場合には祛痰劑から鎭咳劑を與へますが、常に先づ自然療法を第一義とし、之れを補助するために藥物療法を行るのが、先づ現在醫學に於ける治療の原則で、殊に其の第一期卽ち咽喉や氣管の粘膜が乾燥して咳嗽を發するやうな場合には、彼の食慾を惡くする攝涅瓦や吐根などの祛痰劑を與へずに、專ら理學的自然療法を擇り、第二期卽ち呼吸器粘膜の加答兒を起したるものには始めて祛痰劑を與へ、以て滲出物を誘導排出せしむる方法が最も進步した治療法である

この理學的自然療法として最も普通に用ゐらるゝものは、彼の咽喉の外部よりする溫罨法と、口腔よりする蒸氣吸入法とである、前者は保溫作用から局

所に充血を起さしむるもので、後者は水蒸氣を含んだ暖かい空氣を口腔から吸入せしめて呼吸器粘膜を濕ほし且つ溫めて、其の刺戟反應たる粘膜の充血を緩解し、以て自然の狀態に復歸せしむるもので、之れに全身的のものと局所的のものと二ッある。

　全身的のものは前に述べた人工的避寒地で、小兒科專門醫が患兒の治療に用ひつゝあるが、各家庭用として之れを備へ付けるには少しく大袈裟な人工的溫泉蒸氣吸入法である。

　局所的蒸氣吸入裝置として在來より用ゐられて居るものは、御承知の「アルコールランプ」蒸氣吸入器である、之れは「アルコールランプ」で湯を沸かし、發生する蒸氣を口腔から吸入せしむるもので、誰れにでも使用する事が出來る、そして器械の容積が小さくて重量が輕いから、如何なる室にも持ち運びが出來て、不用の時は戸棚の中に藏つて置く事が出來る、然し人間の長所が短所であると同樣に之れには一寸厄介な事がある、それは「アルコール」を常備する事、それから重量が輕いために一寸した不注意例へば吸入中に小供が動いたり、或は小供や看護人の衣服が引つ掛かつたりした時によく轉覆し易い事である、そのために看護人の怪俄などは先づ良いとしても、小供に火傷をさせたり、「アルコール」が布團に溢れて火災を起したといふやうな實例は澤山にある、之等は注意によつて防ぐ事が出來るけれども、之れの最大の缺點は噴霧といふ事が一時的である事である。

　病人の室が冷たいからとて、周圍を締さして瓦斯や炭火で室內空氣を溫むる際には、其の空氣は一層乾燥して來る、そこへ一寸この蒸氣吸入を行るならば、吸入が終つてから直ぐ復た空氣が乾燥するために、更に新たに呼吸器粘膜を刺戟する事になる、故に五分や十分間の局所的蒸氣吸入は寧ろ行らない方が良いといふのが今日の學說である、それよりも眞赤にした炭火の上に藥鑵の蓋を取り放しにして熱湯を沸らして置く方が餘程氣が利いて居る、實際に於

て其の方が效果がある、之れは不完全なる全身的蒸氣吸入法の極く小さいものとも謂ひ得るものであるが、彼の一時的なる在來の「アルコール」蒸氣吸入器と比較すれば、其の蒸發作用が遙かに持續的なるの點に於て、尠くとも氣が利いて間の拔けぬ方法である。

各室内に於ける適當の溫度として定められたる標準は

	(攝氏)	(華氏)
居室	一七—二〇度	六二、八——六八度
執務室	一六—一九度	六〇、八—六六、二度
小兒室	一八—二一度	六四、四—六九、八度
寢室	一五—一六度	五九—六〇、八度
浴室	二〇—二二度	六八—七一、八度
病室	一八—二〇度	六四、四——六八度

次に各溫度に於ける適當なる濕度は三〇乃至四〇%位で四七%を限度とする、五〇%以上となれば室内にある冷たい物體に凝縮水が附著するやうになる今洋式八疊敷の部屋で中等大の火鉢二つに藥罐も掛けずに炭火を炊けば一時間にして其の室の濕度は一五%乃至それ以下に減少する、蒸發裝置を備へざる瓦斯或は石炭「ストーブ」を用ふれば一〇%位となるこの濕度を測定するために硫酸吸水法ダニエル氏濕度計、アウグスト氏濕度計などがあるが、何れも計算を要するもので、家庭用としては不適當である、計算も何も要せざる代りに不正確なものとしては毛髮濕度計とレックナーゲル氏濕度指示計とがある、後者は室内空氣の溫度に對して濕度が適當なる時は白、過剩なる時は黑、不足なる時は赤の標紙が前面の硝子に出るやうに作つたものであるが、室内溫度を寒暖計で、濕氣を濕度計で見て、之れを一々表に對照して濕度の過不足を計算するのは頗る厄介な事である、要するに衣服が濕氣を帶びぬ範圍内に於ては可成蒸發作用を盛ならしむるやうに注意するのが一番完全である。

所で以上の全身的或は局所的、何れの吸入裝置を擇ぶべきかは勿論各人の自由で、且つは又部屋などの都合もあるが、何れにしても蒸氣吸入法をして效

果あらしむる最大條件は、同時に室内空氣をも溫むる事と、其の溫度と濕度との關係が適當に調和を保つて、其れが持續的に呼吸器粘膜に作用する事である、在來の吸入器に共通なる缺點はそれが出來ぬ事である、卽ち吾人の望む吸入器は、蒸發作用卽ち噴霧といふ事が持續的に行はれて、室内空氣をも同時に溫めて、成るべくならば使用と保存とに便利で轉覆などゝいふ危險が無くて且つは經濟的のものである、中々注文が六ッかしい。

古瀨學兄の考案に係る暖房用蒸氣噴出器（本鄉森川町一、田中林次郎器械店發賣）は略ぼ是等の要求を滿たして居る、之れは一口に謂へば輕便蒸氣「ストーブ」で、在來の「アルコール」蒸氣吸入器を大きくして蒸發水槽に液體分離器を附屬せしめ、「アルコール」の代りに瓦斯、電氣又は炭火を用うるやうに改造したものである、使用法が頗る單簡で、蒸發水槽に水を入れて之れに加熱すれば、室溫の上昇と共に水は沸騰し、水蒸氣は液體分離器を通じて不絕噴出する、卽ち室内空氣を溫めつゝ同時に水蒸氣が注加されるので、空氣の乾燥する恐れは少しもなく、長時間の使用に堪えて體裁も良く、且つ銹留めがしてあるので不用の時は藏つて置いて何年必要に際して用うる事が出來る、瓦斯や電氣のある都會では最も使用に便利であるか、瓦斯や電氣が無くとも炭火を以て充分に以上の目的を達する事が出來る一の全身的吸入裝置である、衞生上から云へば室溫法の熱源としては瓦斯「コークス」石炭などよりも炭火の方が溫度が軟かで、從て室内空氣を乾燥せしむる事の僅少なる點に於て、遙かに優つて居る（木炭の使用法に就ては一寸終りを覽て下さい）そして炭火の燃ゆる面積が大なる丈け室内空氣に對する加溫力は「アルコール」吸入器などの比では無い、試驗成績によれば西洋館十五疊の室内に於て本器第一號品は蒸氣噴出後の一時間に攝氏八度（華氏一四、四度）の加溫力がある、又水蒸氣の噴出量に於ても「アルコール」吸入器の比では無い、之れを「アルコール」を使ふ場

合と比較して見れば、經濟上の利益は云ふまでもなく、衛生上から見れば普通の蒸氣吸入と室温法とを兼ねたもので、之れに火氣「ストーブ」を併用すれば各室をして隨時に彼の人工的避寒地たらしむる事が出來る、余は之れを小供を有する家庭には、感冒の豫防又は治療用として、又呼吸器の弱い大人諸彦のためには感冒豫防の暖房用として御勸めするものであります、

［木炭使用法］　木炭は瓦斯吸收力の非常に強いものでありますから、不潔な場所に貯藏されたものを、其の儘室内用とする時は、時に堪え得ぬ惡臭を放つ事があります、縱令惡臭を發せぬとしてもそれが有害瓦斯を含有して居らぬ證據とはなりませぬ、蓋し眞の有害瓦斯は無臭のものゝ方が多いからであります、故に木炭は臺所で煮物や何かをする場合は別として、之れを暖房用として火鉢や炬燵などに用ふる場合には、豫め其の含有瓦斯を驅逐して仕舞ふ必要がある、其の方法にも種々あるが、最も單簡で、即ち必ず行はれ得べき方法は、一度焜爐か何かで熱氣を加へ（決して赤くする必要は無い）其れを火消壺に貯へて置くのであります、尠くとも小供の寢室にはさうした木炭の暖房用としたいのであります。

藥物の話

醫學士　福田得志述

醫藥は、醫師が患者の訴へを聽き、症狀を診察し診斷を定め豫後をトしたる上にて、これを患者に附與するところの處方箋によりて調劑せらるゝものであるから、その本質上必ず合理的のものでなければならぬ。且つ處方箋には用法を記入して、內服用一日三回食後服用とか、外用罨法料とか、指示してあるからその通りに使用さへすれば誤りはないやうなものである。然し實際上に於ては藥の服用と云ふ簡單なことでも、小兒や重病者にありては却々容易

なことでない。殊に幾種類もの内服藥を與へられ或は外用の塗布料、含嗽料などと、數多の藥が枕頭に並んでゐるときは、それを一々適當に應用し、且つ食餌との配合禁忌等を考慮して謬りなきを期することは容易でない。前々號で、私は醫藥の利き方の大體を述べたが、これより各々の藥に就て、その作用や用法等に就て概略を述べて、一般の家庭にて今少し藥のことをよく了解して貰いたいと思つてゐる。

家庭に於ける藥物の知識が具はつて來ると、家庭にも小さな藥棚を置いて、醫師の監督の下にて、一寸した藥の調劑位は出來る。さうなると、一々醫師或は藥劑師の所にまで藥取りに行く煩雜がなく、第一一家の經濟が大變に違つて來る。近時の藥價暴騰にては所謂藥九層倍でなくとも醫師、藥劑師の一劑は貳拾五錢位が普通であるが自宅で調劑すれば無論これよりも廉價で濟むことは明かである。然し注意すべきは、素人の量見で病氣を見て直ちに藥を製するのは甚だ危險であつて、所謂素人療治と少しも異つた所はない。これは飽くまで醫師の監督の下にて醫師の處方箋によりて行はれなければならぬ。

解熱藥

解熱藥は、「キニーネ」、「アンチピリン」、「アスピリン」等であつて、普通感冒藥と呼ばれて居るものゝ多くはこれに屬してゐる。

●●●●解熱藥の作用　解熱藥は本來一種の麻醉藥であつてこれを熱麻醉藥とも云つて居る。

吾々の身體は外界の氣溫が寒暑の變化をなすにも拘はらず、常に殆ど一定の體溫を保有してゐる、卽ち攝氏の三十七度であつて、これを平溫と呼ぶ。かくの如く外界の氣溫が上下するにも拘はらず一定した體溫を保ちて居るのは、腦髓の一部に溫中樞といふ部分があつて、こゝで體溫の調節を掌つて居るに依るのである。寒い冬の日には體熱が外界から奪はれることが多いから、溫の中樞はその發散を少なくしやうと努力して、皮膚の血管を收縮して、溫き血液を體の內部に集め、且つ皮膚の表面をも緊縮して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

所謂局所を生ぜしめこれによりて熱の發散する面を狹くしやうとする。若しこれでも熱の發散が盛んで普通に發生して居る體熱（運動、消化、分泌、思考、感覺等の身體の官能に附隨して體熱は發生する）では償うことが出來ない場合には、吾々の身體はガタガタ震ひを始め、筋肉の運動によりて發生する熱を供給して、體溫の一定を保有するのである。

吾々の體溫が病的の昇騰を示したときにこれを病熱といふ　病熱は前に述べたる溫中樞が種々の毒のために異常に興奮して、體熱の發生がその發散よりも過量であるときに生ずる。故にその熱を下降せしめんがために用ひらるゝ解熱劑は、體熱の發生を減却するものか、發散を盛にするものか、或は溫中樞を鎭靜する性質のものでなければならぬ。而して今日一般に用ひらるゝ所の解熱藥は多くは、この後者に屬してゐる。

既に解熱藥が一種の麻醉藥である以上は、「アンチピリン」を頭痛に用ひ、「アスピリン」を腰痛に用ふるは決して不合理なことではない。又「キニーネ」が特效的に「マラリヤ」に利き、「アスピリン」や「サリチール」酸曹達などが、急性關節僂麻質斯に利いて、殺菌作用を有するのも考へられぬことではない。私は頭が痛いから藥を下さいと云つて來た患者に對して「アスピリン」をお飮みなさいと勸めたら、「アスピリン」は感冒藥ではありませんか、と反問されたことがあつたが、藥に對する一般の考へは斯の如く幼稚なものであるかと驚いた。成程「アスピリン」は感冒に用ひる、而しその用ふる所以は、感冒だからではなくて、「アスピリン」に弱き殺菌作用及び麻醉作用を有してゐるからである。

●●●●解熱藥の應用　病熱は溫調節機の興奮によりて發するものであるが、然し病熱を凡て有害なるものと考ゆるのは、古い思想であつて、今日の研究に據れば病熱は細菌の感染に對するところの有機體の防衛作用である。同じ肺炎に罹つた動物を二匹置いて、その一方の動物には溫刺と云つて體溫が昇騰し來るや

うな手術を施して置くと、その動物は、他方の對照動物に比較すれば遙かに速かに病氣が治るのである即ち發熱は疾病の治癒を促進するところの一機轉である。それ故に熱あれば必ず解熱を用ふるものとの見解は謬つて居るものであつて、高熱が引續いて居るために神經の消耗が盛んであり、或は大切な器官が變化を蒙むるの恐れがあるときに、輕き鎭靖藥としてこれを用ひ、或は疼痛あるときにその鎭痛藥として用ふる位が、適當なる應用であつて、色々の急性熱性病に對して大量の解熱藥を處して無熱に引下げやうと努力するのは愼むべきことである。尤も「キニーネ」の「マラリヤ」に於ける、「サリチール」酸劑の僂麻質斯等に於ける特效藥の如き作用あるものは例外である。

●●●●●**解熱藥の用法**　解熱藥はかくの如く痲醉、殺菌の作用を有して居るところの劇藥であるから、その處方及び調製は職業的の人に依賴すべきは勿論である。用法も亦處方箋に記入されて居るやうになさねばならぬ。

「**アンチピリン**」を服用する際に注意すべきことは「**アンチピリン**」には特異質と云つてそのために發疹を生じ、顏や體が赤く腫れることがある、この際は直ちに「**アンチピリン**」の服用を止むれば治る。「**キニーネ**」にも亦色々の特異質があつて或は發疹を生じ、或は視力障碍、或は重聽、耳鳴等を起すことがあるからこれ等の症狀が表はれたら直ちに醫師に相談することが必要である。「**アスピリン**」は前二者に比して中毒症狀を起すこと鮮くその作用も溫和であるから最もよく用ひられてゐる、一般家庭の備品としても最も適當である。普通大人には一日量一・〇瓦を三分して、食後三十分位に一包宛服用するのである感冒の氣味があるとき、鼻加答兒を起したとき、頭痛、腰痛のとき等皆「**アスピリン**」を用ひてよい。小兒には一日量〇・五乃至〇・三を與へ、あまり量が少ないときには乳糖を加へて服み易くする。「**アスピリン**」は白色鱗片狀の輕い粉末であるからこれに乳糖

を混和した方が、そのまゝよりも吸み易い、乳糖はたゞ便宜上混和するので、「**アスピリン**」の作用はこのために少しも變ずることはない。

解熱藥の主なるものゝ名稱と用量とを掲ぐれば左の如くである。

「**キニーネ**」一般に鹽酸「**キニーネ**」が用ひられる、水には可なりよく溶けて甚しい苦味を有して居る、用量は大人〇・五乃至一・〇瓦、小兒は年齡一歳毎に〇・一瓦宛の割合に用ふる。

「**アンチピリン**」最も普く知れ渡つて居る解熱藥である。用量は一日量一乃至二・〇瓦を用ひれば奏效は確實である、解熱に際して特に發汗が多い。解熱も熱の再發も徐々に行はれるから危險が少い。解熱の目的以外には鎭靜及び鎭痛に用ひられる。味は苦い。「**アンチピリン**」疹に注意を要す。

「**ミグレニン**」とてこの頃種々の頭痛に用ひらるゝものがあるが、これは「**アンチピリン**」に他の藥を混和したもので、その主效は「**アンチピリン**」に依るものである、用量は「**アンチピリン**」に同じで、頭痛に利く、

「**ピラミドン**」はよく水に溶けて、味なく、而もその效力は「**アンチピリン**」の三、四倍もあつて、解熱藥中の白眉であるが今度の戰爭でその價は非常に貴く日常用ゆるに適しない。用量〇・二五乃至〇・三瓦、

「**アンチフエブリン**」奏效迅速なれども稍々強烈なれば、時々中毒を起せることあり素人の取扱ふは危險なり。

「**フエナセチン**」は解熱藥としてよりも寧ろ鎭痛劑として用ひらる、（〇・五瓦位）。

「**サリチール**」酸曹達「**ザロール**」等は解熱作用は前者に比して不充分なり。これ等は寧ろ諸種の感染を體內にて撲滅するの目的にて用ひらる。「**ザロール**」は腸に入りて始めて「**サリチール**」酸と石炭酸とに分解して、こゝにて防腐作用を發揮するものなれば腸の異常醱酵等に對して用ひられる。

「**アスピリン**」の用法は既に前に述たる通りである

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

以上解熱藥の概要を述べたが、解熱藥に限らず、一般に藥を用ふるに當りて注意すべきことは、用量、反復、蓄積、習慣性などの事柄である。

●用量　の必要なることは誰しも分ることであらう。如何に妙藥であつても、それが極微量であつては到底その藥物獨特の效能を發揮することは出來まい。抑も內服用に用ひられた藥物は口より胃又は腸に入りて、こゝにて吸收せられて血中に入り、そして體中を循環してその働くべき部分に到つて作用するのであるから、隨分の分量が搬入せらるゝのでなければ、充分の效能が表はるゝことは難かしい。だから藥を用ふるには必ずその分量を與へなければならぬ、そしてその分量は各人の身體の大小、年齡の長幼によりて異なるは勿論である。

●反復　然しながら、充分なる用量を用ひてその藥の效能は現はるゝとしても、これと同時にその藥が身體に有害であつてはならない、即ち身體には無害で而も病氣には利くところの分量を見て與へねばならぬ。そのためには一度に大量を與ふるよりもこれを數回に與ふるがよい、のみならず、藥は服用したる後體中にて變化するか或は排泄されて直ちにその作用を失ふものであるから、一回與へた切りで置いては效能が少ないから、二十四時間中に數回宛反復して與へて、藥の效果を持續せしむることが甚だ肝要である。故に三回分の藥を一度に服めば一回分を服んだのよりも三倍の效能があらうと思ふのは謬りでそれによりて却つて不良の結果に陷ることがあるかも知れぬ。

●蓄積　かくの如く反復して藥を與へてゐると、前に服んだ藥が少し宛蓄積して來て、遂には大量を一度に服んだのと同じやうに強く作用するやうになる。吾々はこれによりて醫治效果を得ることがあるが、又恐るべき中毒症狀を起すことがある故に、同じ藥を持續的に服用して居るときにはこの蓄積作用に注意する必要がある。心臟病に用ふる「ヂギタリス」は殊にこの恐がある。

習慣性　ある藥を反復して用ひて居ると、その藥が言はゞ常食のやうに變化して、普通の人には充分に作用する分量を與へても、その人にはもう何等の效能がなく遙かに大量を用ひて始めて普通人に通常の用量を用ひたと同じ作用を見るやうになることがある。これは同じ藥許り服んで居ると身體の細胞がそれに慣れて終つて一向感じなくなつたのである。その屢〻見るゝものは「モルヒ子」である鎭痛の目的で「モルヒ子」を用うる、これを反復して居ると、前の分量では足らず、その倍、三倍、十倍と增して、普通の人は、それで死んで仕舞ふやうな大量を用ひても平氣になつて來る。かうなると、「モルヒ子」はその患者には必要缺くべからざるものになつて居て、これを止むれば却つて色々の障碍が起るやうになる。かくの如きものを習慣性と稱してゐるが、これは藥を濫用したゝめに起つた弊害である。

蓄積作用　習慣性などゝ云ふものは皆、藥濫用の結果であるから醫師は素より患者自身も深く注意して如何なる藥と雖も、なるべくこれを避けるやうにしなければならぬ。さうしないと眞逆の場合になつてから、用ひた藥の效能が充分でないものである。藥で育つた子に藥が利かず、藥に緣遠い勞働者や下女下男がたつた一度の藥でメキ〳〵恢復して來るのを見ると思ひ半ばに過ぎぬであらう。

腹水の話

醫學士　篠原昌治述

腹水は一般に腸滿と唱へまして屢〻見らるゝ疾病であります而して腹水は一般に腹腔内に液體の蓄積することに因つて生ずるものでありまして元來健康な人でありますれば腹腔内に於ける液體の分泌と吸收とは常に平均を保つて居りますから腹腔は空虛になつて居るものでありますけれどそれが種々なる疾病の爲めに此兩者の平均を失ひまして腹腔内に液體

の瀦溜するに至ることがあります即ち腹腔内に於ける液體の吸收は尋常であるのに分泌が亢進した場合若くは分泌の亢進すると同時に吸收も亦減退した場合には腹水を生ずるものであります。

腹水は種々なる疾病によつて發するものでありますけれど主として諸種の心臓病、肝臓病、急性及慢性腹膜疾患、腎臓病等の際に來るものであります其他稀には少女の腹水と申まして少女の月經前に腹水を發し月經が來れば自然に消失する樣なことがあります。

腹水の際に腹腔内に蓄瀦する液體の性質は如何なるものであるかと云ふにそれは腹水を發すべき疾病の性質に因つて多少相異して居るものであります。

心臓病、肝臓等の時に生ずる鬱血性腹水の場合には其液は全く澄明であまして黄色或は綠黄色を呈し之を顯微鏡下に檢査しますれば少數の淋巴球赤血球及び腹膜内皮細胞等を有するものであります又腹膜炎の如き炎衝性の腹水なれば其液は纖維素より成立する絮狀物及び大なる凝固物を含有し其他膿球血球及び諸種の病的細胞を有することがあります化膿性腹膜炎の如き場合には全液が悉く膿汁となつて居ることがあります。

乳糜性腹水及び脂肪性腹水に於きましては其液は全く白色不透明でありまして屢々黄色又は帶靑紅色を帶び恰も稀釋したる乳汁又は全乳の如き觀を呈して居ります之を放置しますれば器底には稍々濃厚なる物質を沈澱し液の表面には乳皮樣脂肪層の浮ぶを見るものであります。

腹腔内に液體が瀦溜しましても其量少き時は之を診知することは不可能でありましてそれを明に證明し得るには液量が少くとも千五百乃至二千立方仙迷以上に達せねばならぬものであります。

腹腔内に多量の液體が瀦溜した場合には腹部の形狀は體位を變換することによつて變化するものでありまして患者が仰臥すれば其側腹部が膨隆し腹壁の前面は扁平となりまして蛙の腹の樣な形狀をなすも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のであります之に反して患者が起立しますれば腹部の下半部膨滿し臍は多くは其形を失ふものでありますけれど稀には其部分が欲爾尼亞の様に前方に突出し之に壓迫を加へますれば其内にある液體が腹腔内に竄入することがあります。

腹腔内の液の量が甚しく増加しますれば腹部は一般に膨滿し腹壁の皮膚は蒼白色を呈し甚しく緊張して一種の光澤を放つものであります此際往々腹壁の下方に於ける皮膚の層に斷裂を生じまして初めは紅色若くは帶靑紅色の線を現はしますけれどそれが後日に至り腹水が消退した場合には瘢痕性の白線となつて殘るものでありますこれは腹水の時にのみ生ずるものではなく一旦腹壁が甚しく緊張した場合には常に發するものでありまして嘗て分娩したことのある婦人の下腹部に於ては常に之を見ることが出來ます。

腹水が長く持續しますれば皮下の靜脈が擴張して蛇行狀を呈し屢々又下肢及び陰部等に浮腫を來し遂には腹壁の皮膚にも浮腫を生ずるに至るものであります其他高度の腹水の場合には横隔膜が擧上せられ其爲に肺臟及心臟等が壓迫せられまして心悸亢進呼吸困難及鬱血等を生ずる事があります。

以上述べました症狀は何れの腹水にも共通のものでありますけれども其他の症狀及び經過等は腹水を惹起すべき疾病の性質によつて其趣を異にするものであります。

心臟病及腎臟疾患の際には屢々腹水を生じますけれど此等の疾病に於きましては最初に腹水を發するものではなく多くの場合に於ては先づ顏面及び下肢等に浮腫を生じまして其後に至り腹水の存在を證明せらるゝ様になるものであります。

心臟病の際には心臟の機能が障碍せらるゝものでありますけれど之を補ふ爲めに心臟が強く働きますからよく其障碍に打克ちまして平時に於ては身體に何等の異狀をも呈しません然し少しでも過度の勞働をすれば直ちに心悸亢進呼吸促迫を感じ同時に下

肢に浮腫を生じ續て腹水を生ずるに至るものでありますが然しながら輕度の心臓病でありますれば其際直ちに患者が身體を安靜にし且適當の治療法を施しますれば下肢の浮腫及び腹水等は自然に消退するものであります其故心臓病の爲に高度の腹水を來し之を穿刺して液を排出せねばならぬ様になる事は稀であります。

腎臓病の際には屢々高度の腹水を生じ甚しく患者を苦しむることがありますけれど此場合に於きましても單に腹腔だけに液が瀦溜するものではなく全身に高度の水腫を來しそれに伴ふて腹水を生ずるものでありますから腹水よりも寧ろ全身の水腫の方が主要症狀をなすものであります夫故その治療法としては如何にして腹水を排除せんかと云ふことよりも先づ尿量を増加せしめそれによつて全身の水腫を去る様に試みらるゝものであります幸にして其際藥劑又は其他の治療法の效果が現はれて全身の水腫が消退する場合にはそれと同時に腹水と自然に消退するものであります然しながら腎臓病の水腫はたとへ充分なる治療法を加へましても常に都合よく消退するものではありません其際醫者が種々なる強心劑又は利尿劑等の藥劑を與へ其他發汗療法皮膚穿刺又は亂切等の凡ての治療法を盡しましても水腫は少しも減退しないのみでなく却て日を追ふて漸次増加しそれと共に腹水も次第に増量し患者は甚しく苦悶することがあります斯る場合に於きましては他に適當なる治療の施し様がないからせめて腹水だけでも排除すれば患者の苦痛を減することが出來るといふ處から腹壁に大なる針を穿刺しまして腹水を排出するものであります斯る場合に於きまして一旦腹水を排出したる爲に患者は非常に輕快を感じ又其迄は如何なる方法を盡しても少しも尿量を増加することが出來なかつたものが腹水を排除してから急に尿量が増加し全身の水腫も忽ちにして消退して患者は非常な苦痛を逃るゝのみでなく遂には疾病も完全に治癒する場合も決して稀ではありません。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

肝臟病の時の腹水は前二者の如く全身水腫を來すと同時に腹腔にも亦液體が瀦溜するものではなく最初より主として腹腔にのみ液が蓄積するものであります此際患者は食慾不振胃部の壓重下痢等の症狀を訴へますけれど其症狀は主として腹腔に液が瀦溜する爲に發するものでありまして其液量が增加するに從ひ患者は甚しき苦痛を感ずるものでありますから之を自然に放置することが出來ず遂に之を人爲的に排除せねばならぬ樣になります其際醫者は腹壁に大なる針を刺しましてそれより腹水を排出するものであります然るに病初に於きましては液を排出しますれば腹水は殆んど完全に除去せられ腹部は急に小くなり患者は非常に爽快を感ずるものであります然しそれが爲に病勢輕快するものではなく液は直ちに瀦溜し始め一週間乃至十日の後には又以前の量に達し再び穿刺して液を排出せねばならぬ樣になります。

時日の經過するに從ひ穿刺して液を排出しましても完全に之を除去することが出來ず其幾部分は腹腔内に殘留し從つて腹腔も充分に縮少せず患者も穿刺後以前の樣な爽快を感ずることもなく穿刺後液の瀦溜することも迅速でありまして穿刺より穿刺までの時日は漸次短縮し頻回穿刺を行ふ内には患者は甚しく衰弱し遂に不歸の客となるものであります穿刺の回數は場合によつて甚しく不同でありますけれど時として一患者に就て四十回以上も穿刺を行ふことがあります。

腹膜炎による腹水は前三者と多少其趣を異にして居りまして前三者は何れも腹腔内に液が瀦溜すると云ふことだけでありまして腹壁には殆んど變化はありませんけれど腹膜炎の際には多くは發熱を伴ひまして腹壁は硬固となり疼痛を發し且之を壓すれば甚しき疼痛を訴ふるものであります此場合に於きましても多量の液が瀦溜すれば穿刺して其液を排出する必要があります腹膜炎による腹水の豫後は常に不良なものではなく穿刺によつて液を排除した場合

でも完全なる治癒を來すことは決して稀ではありません。

腹水と間違ひ易き疾病は婦人の卵巢囊腫であります卵巢は鷄卵よりも小なるものでありますから其一部分に水が出來ましてもそれが廣大なる腹腔內に液の瀦溜によつて生ずる腹水と間違ふ樣なことはあり得べからざることの樣にも思はれますけれど卵巢囊腫は極めて大きくなり得べき性質のものでありますから初めは極めて小なるものでも漸次擴大し遂には腹腔全部を占領し爲に腹水と鑑別し難きことは屢〻遭遇せらるゝ事實であります。

腹水と卵巢囊腫との鑑別は腹水では前腹壁は扁平で臍は消失して固有の凹隆を有せず且體位の變換により甚しく腹部の形狀を異にするものでありますけれど卵巢囊腫の際には前腹壁は前方に突出しまして臍は固有の形狀を保有し且體位の變換によりても腹水の如く著しく腹部の形狀が變化するものではありません然し疑はしき場合には試驗を行ひまして瀦溜せる液の一部を採取し檢査することが必要であります腹水の場合には稀薄透明なる液でありますけれど卵巢囊腫の際には溷濁せる膠樣の粘稠液を得るものであります。

腹水の豫後は其原因たる疾病の種類により相異するものでありますけれど多くは重大なる疾患の爲に來るものでありまして其疾病が輕度のものでありますれば完全なる治癒を來すこともありますけれど多くの場合に於てはたとへ一時的の治癒を見ることがありましても早晩再び液の瀦溜を來し遂に不幸の轉歸をとるものでありますから腹水に罹つた場合には可成速に適當なる治療法を行ふ必要があります。

腹水の治療法も亦其原因たる疾病の種類によつて異なるものでありまして其等に就ては各疾病の御話を申上げる時に御話したいと思ひます又腹水そのものゝ治療法は凡て醫士の手によつてのみ行はるべきものでありますから爰では申上げぬことに致します。

腸窒扶斯の流行

醫學博士　二木　謙三述

目下市内の一部には、腸窒扶斯が猖獗を極めて居る文明國の都市に、斯かる傳染病の絶えないのは寔にお恥しい次第であるが、上水下水の設備不完全な間は、何と言つても仕方がない。

〇怖るべき菌携帶者

仕方がないとて諦めて居る譯には無論行かぬ。各人それ〳〵注意して、之に罹らぬやう用心すべきは言ふまでもなく、又かの健康な樣子をして居ながら窒扶斯菌を體内に有する菌携帶者の如きは、殊に遠慮して、自己の病毒を周圍に撒き散らさないやうに心掛けねばならぬ。所が多くの場合には本人が知らぬ故に誠に困まるのです。

腸窒扶斯に罹つて寢て居る間は、嚴重に消毒を施すから、病毒の撒布する憂ひはないが、全快して後、數箇月乃至一年間位は、尙病菌を體内に保有するものがあるから、さういふ菌携帶者は本當の患者よりも却つて怖ろしいのである。

何となれば、彼は達者なだけに何處にでも出て歩くそして自分の排泄物から出る病原菌の附著して居ないとも限らない手で、電車の釣革にもぶら下り、戸障子の開閉もする尤も長い時間乾燥すれば菌は自然に死滅するから宜しいが、新しい時は直ぐに死滅せぬことがある。

黴菌といふものが、肉眼で見えるものなら、此釣革には窒扶斯菌が附著して居るとか、此引手は怪しいとかゞ分るが、目に見えぬ悲しさには、何人も知らずに、又其釣革にぶら下がる。或は引手に手をかける、今度其指先を甜めるさ、窒扶斯菌は其人の口に這入る譯である。

若し又菌携帶者が、便所から出て來て、手をロクに洗ひもせず、若くは形式一遍に洗つただけで、直團子を丸めたり、壽司を握つたりしたならばどうで

あらう客は窒扶斯菌と一緒に、それ等の壽司なり團子なりを食ふことになる。

菌携帯者の不潔な衣類を共同井戸の流しで洗濯し、破損せる井戸側若くは釣瓶などから、汚水が井戸の中に浸み入れば、病原菌は忽ち井水の中で繁殖する。斯くして窒扶斯は蔓延するのである。

○食物の上の黴菌は何日位生存するか

菌携帯者の外に、病毒を傳播するものは、蠅や鼠の如き小動物である。是等の動物が窒扶斯患者の排泄物に觸れ、其病毒の附著した不潔な體で家中を飛び廻るので、病毒は四方に擴がるのである。

殊に蠅は處を擇ばず、爼、庖丁其他一切の食器や食物の上にたかつて、縱横無盡に汚す、鼠も臺所、流し場、戸棚等を荒れ廻つて隨處に病毒を撒布する。

撒布されたる黴菌は、幾日間位生活するかといふに、米の飯の上ならば四晝夜以上、刺身の上には二晝夜以上、醤油の中では三晝夜、又大根おろし、山葵おろしなどには四十八時間も生活し得る。

だから腸窒扶斯流行の際などは、餘程清潔に拵へたものでなければ、刺身は危險である。御飯も蠅などのたからぬやう、嚴重な注意を要する。

刺身に比ぶれば、酢の物の方が宜い。酢に浸せば、菌は五分間で減少し、十分間で全く無くなる。

併し如何に食物に注意しても、箸を等閑に附しては何にもならぬ。それも能く洗つて乾かしてあるのなら宜いが、生乾きの箸には、三晝夜以上も窒扶斯菌が生活して居る。

其他牛乳や甘酒の冷えたものには、四晝夜以上菌は生活を保つ、鼠が夜間臺所に來て、桶なり「バケツ」なりの水を飲んで、病原菌を落したとすると其水の中で菌は七晝夜以上生活する。故に汲置の水は一切使つてはならぬ。

果物の中で最も危險なものは甜瓜で、其切口に黴菌が附著すると、益々繁殖し、五時間の後には非常の數になる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

斯く擧げ來れば、安心して食べられるものはないことになるが、生で其儘食ふ食物の中にも、夫れ自身殺菌力を有するものがある。

〇殺菌力を有する食品

買うて直ぐ食べる物で、殺菌力を有するものは、梅干である。梅干に窒扶斯菌が附著すると、二分間で著しく減少し、五分間で全く無くなる。

澤庵にも殺菌力がある。然し之は梅干ほど強くはなく、全く殺菌さるゝまでには、七時間乃至十時間、時には二十四時間もかゝることがある。

糠味噌は案外殺菌力が強い。一時間乃至三時間で窒扶斯菌は漸次減少し、遂に無くなる。但し古くなつた糠味噌には殺菌力は無い。

何となれば、其殺菌力は、糠の醱酵素の爲に生ずるもので、古くなると、醱酵素が充分に出來ないからである。

菓子類では甘い物ほど殺菌力が強い。即ち砂糖の結晶しかけた餡物の如きは安全で、砂糖の淡いものは、黴菌に對して危險である。

羊羹、翁飴などは、砂糖氣が強いから、一時間以内に無菌となる。それで、水に砂糖を入れて飲めば、黴菌の危險はないといふ者もあるが、水に入れて飲める位の甘さでは、黴菌は死なぬ。

鹽煎餅の如き鹽の辛いものも亦一時間以内で殺菌される。夏蜜柑、林檎、梨等にも殺菌力があり、大抵五時間以内で菌は無くなる。

それ等の果物でも上皮には殺菌力はないから、「ナイフ」と手を清潔にすることを忘れてはならぬ。又傷のある果物には宜しく注意すべきである。「バナヽ」の黒くなつて居る所は、黴菌の危險あるものと思つて、食つてはならぬ。

腸窒扶斯は我邦には年中絶ゆることはないが、殊に夏から秋、十月下旬が最も多い。本年は七月以來非常に殖えた。此勢ひを以てすれば、今後の暴風雨後の流行が思ひやられる。

〇恥べき年中行事

牛込鶴巻町附近に猖獗を極めて居る腸窒扶斯は、今や將に戸塚、大久保方面を襲はんとしつゝあり、本郷東片町其他に於ても散在性の流行を示し、秋冷を催すと共に漸次蔓延せんとするの兆がある。

何故に斯く非常の流行を來たすに至つたかといふに主として飲食物の媒介に因る。刺身、生豆腐の如き、買うて直ぐ食べるもの若くは火を加へないで食べる物が、主に病毒を媒介するのである。

現に牛込邊では、奴豆腐を食べて、一家數名の患者を出した例が尠くない。豆腐は滋養分も多く、日本人に取つては寔に良い食物であるが、たゞ夫れを浸す水が不潔だと、病毒の媒介者と化する。

故に奴豆腐でも、一度煮て冷してから食へば安全である。無論風味は大に減ずるが、病氣を感染することから見れば何でもない。

刺身も煮魚や燒魚よりは美味い。けれども生豆腐と同じく、病毒媒介の危險がある。殊に不完全な掘井戸の水で洗つたものは甚だ危險である。

涼しくなつて、窒扶斯だの赤痢だのが著しく殖えるのは、一寸考へると合點の行かぬ話であるが、實際十月下旬頃が、是等の病氣の流行は其頂上に達する。

これつまり九月の大水の爲である。豪雨頻りに到り、大水が出ると、便所が溢れて、病菌が四方に擴がる。其際、新聞などで教育されて、通俗な衛生的知識を有する者は、飲食物にも注意するが、然らざる者は、折柄の食慾増進にまかせて、何でも構はず貪り喰ふ。

斯くして胃腸の弱つた所に、病原菌が這入れば、容易く發病し、軈てさういふ連中を、片ッ端から將棋倒しにするのである。

而も年々歳々之を繰返して止む時はない。文明國の市民として恥づべき年中行事の一である。

○有效な鼠退治法

今秋のやうに、腸窒扶斯の流行の兆ある際には、各自飲食物に注意すべきは勿論、病毒の媒介者たる

蠅や鼠の驅除を行ふことが大に必要である。
鼠を驅除するに最も良い方法は、鼠の餌となるべき物を家の内外に置かぬ事である。鼠は何か食べる物があるから來るので、絶對に食べる物がなくなれば、共食して段々と減り、仕舞には一匹も居なくなる。

鼠の食べる物を出し放しにして置いて、如何に鼠捕の藥などを試みても、第一鼠は其藥に寄りつきもせぬ。鼠の根絶法は、其食物を絶つが一番だ。

米の磨汁なども其儘流すと、碎けた米までも一緒に流れ、溝に沈澱するので、鼠はそれを食ふ爲にやつて來る。故に流しの口には笊か袋をあてゝ、米の流出を防ぐが宜い。

斯くして絶對に鼠の食を絶ち、そして鼠捕りの藥を用ゐれば、百發百中、屹度捕れる。

怖ろしいのは便所の蠅で、之を無くするには、便所の窗を簀若しくは金網で張つて、蠅の交通を遮る事、若し又便所が牀下に續く所なら、其隙間をも嚴重に塞がねばならぬ。更に出來るならば便所の口に蓋をする事である。

理想的に言へば、西洋風の便所にして、其都度洗ひ流すやうにすれば宜いが、併し下水の設備の不完全な今日では、汚物は皆川や濠に流れ、却つて不潔である一方を改良しても、一方が舊の儘であつては何にもならぬ。

腸窒扶斯の豫防注射は、寄宿舍、兵營等の如き大勢集合して居る所に流行した場合は必要であるが、今年の如き散在性の流行に際しては、之が實行容易でない。

それに、此注射は一ヶ年間しか免疫の效力は無いから、毎年やらなければならぬ。それよりも衛生敎育を普及せしめた方が、遙に根本的である。新聞で敎育の出來る所は、其方が效果が多い。

育兒

教育上及醫學上注意すべき兒童の性癖に就て

醫學士　杉田直樹述

〔本篇は去月十二日作樂館に於ける本會例會の講演の大要なるが、都合上育兒欄に收むることゝせり編者〕

神經病や精神病の診療に從事してをります者が一番遺憾に感じますことは少年時に豫防や治療の出來る病氣を親御や敎員方が不注意に過して、適當な專門醫に御相談なかつたため、年頃になつて取り返しのつかぬ不治の腦の病氣を招いて御當人の一生のみならず延いては一家の幸福をもこのために犠牲にしなければならぬといふやうな例が日常決して少なくないことであります。文化の進むにつれ育兒や子女敎養の上にいろ〳〵綿密な注意が行屆くやうになつて參りまして御兩親、敎員、家庭醫などが協力して幼いものゝ將來のため萬全の方法を講じてをりまして、上流中流の御家庭では、家庭を擧げて子女のため全力を注いで居らるゝ方々も目今少なくないやうに見受けられますが我々の立場から尚甚だ殘念に思はれますることは、是等の行屆いた御注意が主としてかよはい子供の身體の方面――傳染病の豫防とか、消化器呼吸器の衞生とか――に計りそゝがれまして、精神殊に情意の方面の敎養上の注意が閑却されてゐはしないかと云ふことであります。智力の足りたいものは格別注意をひくこと故、之は論外といたしまして、性格の上の些少の變調や異常は單に子供にありうちの「むづかり」や機嫌の惡いことに歸せられ、「お腹に蟲でもわいたんだらう」「大きくなつたら獨りでに治るだらう」と高を括られてそのまゝに格別の手當もなさらずに看過せられて了ふことが多

いのでありますが、仔細に吾々專門の醫者から見ますと幼少殊に小學校に入學の前後頃の子供の性格の狀態から推して大凡將來成年になつてから其人が神經病や精神病を發し得る素質のあるかないかは大凡判別がつくのであります。特別に生れつき智力の發達が惡くて俗に「カラ馬鹿」とか「鈍間」とか云はれる著しい子供でありますと早くから氣がついて手をつくし、それでも治らぬと親も諦めて教育を斷念して適當な將來の處置を講じますし、又幼時に腦膜炎や小兒痲痺や或は頭部の大怪我などしてそれから以來智惠付の後れたものは大抵專門醫に御相談があつて相應な手當を致します故、親御の方でも半ばは決心してかゝりますので、當人にとつても、家庭全體にとつても後害は至つて尠ないのでありますが、單に少さい時から片意地で云ふ事をきかないとか、兎角引込思案で友達と遊ぶのが嫌ひだとか、男の子で女の子のやうな遊び事斗り好むでどうも活潑でないとか、とかく學校をするけて怠けて遊んでゐるとかつまらぬことに噓言をつく癖があるとか外ばかり遊び歩いて少しも家におちついてゐない、つまり徘徊を好むとか、まあさう云ふやうな性格の上の異常は惡い性癖とは心付きながらも、子供には極くありがちの異常でありますから、格別大事もとらず自然に直るだらう位に考へて格別の躾や治療もせずに放つておく方が多いのであります。勿論今擧げたやうな性格が凡てが凡て病的といふわけでなく、一時の親のしつけの不注意のため習慣でさういふ惡い癖がついたもので後に自づと治るものも多いことは申し上げる迄もないことでありますが、時には斯ういふ性格が先天性又は病氣としての神經質から起つたものであつて、それが將來年頃になつて精神病を發する前兆や下地であつたりして、之から專門の學術技藝を仕込んでと親が一番望みをかける年頃に可惜永年の慈愛や教養の勞苦を一朝病魔のために無に歸せられてしまふことがあります。後年に至つて成程考へて見れば幼い時斯く〳〵の變つた性格があつたが、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あれが前兆であつたか、それなら幼時かち少し氣をつけてやつたらよかつたにと後悔せらるゝ場合が少なくない。殊に大體から云つて上流中流以上の家庭に比較的多く性格異常の子供が多いやうに思はれますので、今日特に此題を選んで子を持つ親御、子を敎ふる先生方の御注意を願はうと思つた次第であります。

低能な子供、身體に特に著しい疾患を有してをる子供の事に就きましては茲に何も申上げません。是等は既に親御だけの考へに餘つて必ず相應な專門家に早くから御相談のあることゝ信じますから、此講話で殊更私から改めて御注意を促す必要はないと信じます。

子供の性格の異常は大抵神經質といふ一言で蔽はれて了ふやうでありますが、世が文明に進み又家庭の生活が贅澤に進んで參りますと、いろ／＼親の身神を退化させる原因が多くなつて參りまして――之は一々取り立てゝ申上げませんでも、文明の餘弊といふことは隨分各方面に以前から言ひ古されたことで、そのため上流な裕福な家庭で有り乍ら心ある人は態々その生活程度を誡めて剛健素朴の風を失はぬやうに努めらるゝ例も間々承ります――夫等の所謂文明の御蔭で益々神經質の子供が此世に生れる割合が多くなつて參るのであります。身體虛弱な子供と神經質の子供とでは後者の方が數の上で多い位であります。

神經質の子供の出來る原因は第一は生れ付の遺傳で、之は既に生れた以上、外からの力で今日如何とも致し兼ねます。生來身體羸弱のもの、精神發育即ち智慧付の遲いもの、癲癇持などは生れ付のもので醫藥や敎育の力で多少は煩ひを減ずることは出來るにしても、つまり人力を以て左右出來ぬことで、之は諦めなければなりません。申す迄もなく今日の上流中流の方々、即ち社會の柱石となり中堅となつて世の表に立つて活動せらるゝ方は、身體の方よりも精神を多く使はるゝ方々で、從つて大體から云つて

身體の養生にあまり多くの注意を拂はるゝ暇のない方々が多くゐらせらるゝ爲、又いろ〳〵生活や社交上文明開化の御蔭のために、斯ういふ上流中流以上の御家庭に却つて身體の弱い華奢な御子や人間で最高等な腦脊髓等の先天性の御弱い子供が比較的多いやうに思はれてゐるのであります。

生來性といふ中で注意すべきのは遺傳性の胎毒で之は斯ういふ席で申し上ぐべきことではありますまいが、或米國人の調査によりますと不良少年で米國の或少年裁判廷で裁判を受けた者の中約半數は親から遺傳した毒のために、生來神經系に病氣があつたり、筋肉の發育が惡かつたり腦水腫があつたり畸形があつたり、癲癇持であつたりしたものであつて、血清試驗でそれが胎毒性のものであることが確められたさうであります、して見ると遺傳性の胎毒といふことも子供の惡い性癖を生む重要な原因と申さねばなりません。

異常性格の子供を生ずる第二の原因としては生れおちて後に外來の原因で神經系に病氣を得、其結果として性格に變調を來したものであります、其の中には幼時の猩紅熱、痲疹、百日咳、マラリヤ、腦膜炎其他の急性熱病のため、その病氣の直つた後にもどうも精神の發育が惡く、又は性格の變化を來すやうなことがあります。之が原因となつて年をとつて不治の神經病を招くこともあります 一番多いのは親の不注意から子供が段梯子から落ちたり、溝の中へ轉びおちたり、喧嘩して叩かれたり、學校の遊戲中間違つて打ち合ひをしたり、甚だしきは親が子供を叱るときに頭を打つたりして、その當り所が惡いと烈しい腦振盪を起したり又は頭蓋骨を碎いたりしまして一時人事不省に陷るやうな大怪我をし、之が少し年長じてからいろ〳〵の神經病、精神病の原因となることが多いのであります。私共の許へ大學醫院へ通つて來るものゝ中、十歲以下の子供で癇が强いとか、學校の出來が惡くて困るとか、頭痛持で始終ふさいでゐるとかいろ〳〵精神神經の病氣を愬へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て親がつれて來るものゝ中十中八九までは、小さい時に何かの原因で頭に怪我をしたのに基くものでありまして、此の中にはほんとうの災難で避く可らざる奇禍のために怪我をしたものも多いでせうが、大抵は親の不注意が招いた過失によるものなのであります。之は大に御注意あるべきことであります。又之に次いでは僂麻質斯、佝僂病、蛔蟲、胃腸炎、便祕、酒、煙草等のため一時神經質になることもあります。又近時は內分泌器官の異常のために神經質になるといふことも唱へられてゐますが是等は全く醫者の事に屬します故、今日は申し上げません。兎に角是等の外來の原因で腦を病めたやうに思はれる場合には、その將來に就ては成るべく早く專門醫に相談して出來るだけの神經病の豫防法を講じねばなりません。

第三は全く親の責任に屬するもの卽ち生來何の異常も疾病もない尋常の子供に周圍の躾や境遇のために養成せられる惡い性癖で、一例をあげますと落ち付きがなく氣が移り易く物に倦きつぽく、萬事自己中心で周圍の人に思ひやりがなく、氣に入らぬといつでも駄々をこねどこまでも我意を通す、又はいつも人頼りで何一つ自分一人では出來ないといふやうな性質は生れ付の素地もありませうが、殆んど凡ては周圍の力で養成せられたのであります。注意すべき惡習といたしましては泣き叫んで止まない癖、じれる癖、泣いて駄々る癖、遺尿、指をくはへる癖、爪をかむ癖、鼻をほじる癖、何でも物を拾ひ集める癖、まばたき、顔しかめる癖、うそつきの癖、甘へる癖などありまして是等は凡て躾に不注意の咎があるために招くもので、その原因も分つてをりますし、從つて矯正の法、豫防の法も夫々あるのでありますが、一々申上げてゐると時間が永くなりますから今日は省きまして、たゞ名だけ列擧するに止めておきます。

神經質の子供が一人あると、その當人も不仕合せである斗りでなく家庭全體がどうも幸福に行かない

少し長じて來ると之が不良少年の仲間へ入つたりして親々斗りでなく社會へ迄迷惑をかける。第一、第二の原因は茲に論外としましても少なくとも、第三に擧げやうに、隨分現時の親御の不注意、學校の不注意又生活法の缺陷のために兒童の神經質を招くことが多いので、之は今日特に御注意を願はうと思ふ所であります。親が子を躾ける仕方が惡いために、例へば母親が癇性で左程でもないことにやたらに子供を叱つたり、或は又之に反して少し子供の體でも弱いと無暗にいとしがつて甘やかし、荒い風どころか家の外の風にも當てないと云樣に度を過ぎて大切に育てる方もあります。親が子供の御機嫌を餘りとり過ぎて增長させると自我的な我儘な少しも聞き分けのない、或は泣き蟲な人に斗り賴つて何一つ自分で出來ない、夜便所へ一人で行く事も出來ず、一寸小面倒なことは皆人に任せて自分は何一つ試みやうとせずつまり獨立心のない、或は奇癖を有し、食物に好嫌ひをやかましく云ひ、駄々をこね、少し意に充ないと大聲を出して泣いたりぢれたりして母が甘い言葉をかける迄はやめないといふやうな、又召使などにやたら手荒く當つて隨分亂暴な事をする、氣に入らぬ事があると、何でもそこらにあるものを取て投げるつまり大きくなつても手數がかゝる子供が出來上ります。又父が嚴肅なのに母が特別に陰に廻つて其子を可愛がつて、父や他の兄弟に陰して內所だよなどと云つて小使や菓子などをやり、とかく偏頗な愛を注ぐと、却つて陰險な人の氣を讀むやうな、而して自分一人いゝ子になるために他人のことは何事につけ惡いやうにうそをつき、利欲のありさうな人には媚びへつらひ、一體に意志が弱くて自制がなく、學校の試驗なども勉强はせずたゞ人を陥れてうまい汁を吸はうとのみ考へ、之が長じては骨惜みをして、遂々地道な仕事に就くことが出來ず犯罪に陥るさいふやうな徑路を示すのであります。最もどんな子供も同樣に躾けて必ず同樣な性格を示すとは限りません。外界の影響は單に發現しやうとしてゐる

異常な性格の出て來るのを助けるのに過ぎないのでありませう、即ち不良な性格を示すものは躾に過ちがあると共に生來性にも何か缺陷があつたのでせう。つまり長じてから「ヒステリー」重い神經衰弱、大酒家、犯罪人其他不治の精神病などに陷る人には生來性に多少精神の變調を來す素質があるもの故、之が一寸した躾の不注意又は或事件をきつかけとして、著しくなつて來、遂に以上擧げたやうな、又其外いろ〳〵多くの變つた性癖を導き出すのでありまして、つまり從來精神や神經の重い病氣にかゝる下地のある人には少時に斯ういふやうな性格異常を有してゐるものが多いのであります。しかし性格異常ある神經質はいつも親の罪と斗りは云へません、扁桃腺肥大とか齲歯とか胃腸疾患とかの一時性の治し得べき病氣のために突然に生ずることもありますが、之は是等の原因たる病氣を發見して之に手當をしてやりますと、神經質も自然直つて來るものもあるのであります。

東京市内のやうな家屋櫛比し人口の稠密な忙しい場所柄、それに下町の方へ行くと子供の健康に適當な遊び場もなく、又山の手でも日の中は家庭の手少なのため子供は多く無教育な時には性質のよろしくない子守女に委され切りで、全く無方針な感化を受けるのも一つは神經質を起す原因であらう、又日本の風習としては一般に子供の睡眠、食事が規則的に行はれず、泣けば怒ればといつてすぐ菓子をやり、夜は時に遲く迄親の手に抱られて活動寫眞や大通りの目を射るやうな強い光線に當てられ、がちや〳〵と騒々しい物音の刺戟の中で、究屈な姿勢で眠りもならず、時にはうと〳〵した所を急劇な刺戟で目ざまされるといふやうに凡て親の無思慮な不規則な取扱から、夫等の劇しい刺戟に負けて神經質に育てられて了ひます、子供はなるべく安靜に無理な不自然な刺戟のないやうにし、且食事睡眠等は一定の規則を設けてやらす方が發育がいゝといふ原則になつてをります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

米國の哲學者ジョン、フィスケといふ人は動物學者が人類は哺乳動物だといふのが癪にさはつて「他人は兎もあれ、己は哺乳動物ではない、又多分哺乳動物の子でもない。何故かと云ふに己も己の親も母の乳は一滴も飲まずに育つたからだ」と云つて威張つたさうですが、實際統計から云ふと、母又は乳母の乳で育つた子供は罎で育つた子供よりも遙かに丈夫で、神經質のものも少ない。最も母が乳を哺ませてゐる間は母の心配、苦勞、食べ物や藥などが乳の成分に甚だしい影響を及ぼし或藥の成分などはそのまま乳の中へ分泌され、母體から乳兒へ直接移つて行くので、藥品の種類によつては注意しなければなりません。著しい例は母が脚氣にかゝると、その毒が乳と共に分泌されて、乳兒も共々脚氣にかゝるのであります。

牛乳で育てる場合には特別念入の注意を要します子供の年に應じて牛乳を薄めたり砂糖を入れたり分量を適度に加減せねばならず、又配達される牛乳の質をよく調べ、又配達後飲ませる迄之を保存しておくにも注意がいります、一時は乳牛の結核から子供の結核を招くといつて醫界で問題を起したこともありました。兎に角牛乳で間違なく子供を育てるには並大抵のことではなく常に經驗ある醫者を相談相手にしてなさらねばなりません。殊に「コンデンスミルク、ミルクフード」乳粉又は其外の人工榮養品などで育てる子供は神經性の病氣に罹り易い樣に思はれます澱粉性のもの例へば葛や重湯で乳兒を育てますと太つては來ますが貧血性で、骨の發育が惡く、神經の發育が甚だ惡く智慧付が遲いやうです。之を防ぐには菓物の汁、石灰水、オリーヴ油などを適宜人工的食物の中へ混じてやらねばなりませんが、一々の場合々々で加減を要すること故つまり醫者と母親と協力してやらねばなりません。幼い子供に殊に疳が強い子供にあまり賣藥類例へば仁丹などを引きつゞいてのませた爲めに神經質や痴鈍になつた例が屢々あります。齒の生え始は又格別注意が肝要であります。

（以下次號）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小兒に征服せらるゝ家庭

醫學士　宇都野研述

ドイツの有名な小兒科の學者チエルニーといふ先生は、小兒の敎育は生れた日から初めよといふて居りますが、誠に最も至極であると思ひます。我邦には支那傳來の胎敎などゝいふ言葉がありますが、今日實際上さういふ事に心がけて居る人があるか無いか甚だ疑問であるのみならず、其效果に至つても確實とは申されまいと思ふ。元來日本の美習として、小兒を大切にする事が行はれて居るのでありまして小供本位などゝいふ言葉が、新聞、雜誌などに散見して居ります。然しながら其小供の愛しかたが、往往にして不合理に陷つて居るやうであります。其爲に反つて子供に害を及ぼす事を見受けるのであります。其一例を言ひますと、添乳をして寢る習慣がありますので、甚しく授乳が不規則になります。幸ひ人間の乳は哺乳兒に適合したものでありますから、重い胃腸障碍を起す事は極めて稀でありますが、小兒を規律正しい生活に導くといふ敎育的の方面から見ると、由々しい僻事であります。また哺乳兒を玩具の如く心得て、可愛さ珍らしさに、いろ〳〵智慧をつけたり、弄りまはしたり、泣くといつては、家中のものが大騷ぎをして、神輿をかつぎまはるやうな狂態を演ずる事は、實に沙汰のかぎりであつて、小兒の神經は甚しく過敏になり、將來我儘になる素地をつくる事となるのであります。かういふ現象は吾々が一人子の家庭、殊に年老つてから一人子のできた家などで、よく見る事であり、また老人や婦人の多い家で遭遇する事でありまして、若し其子供が生來神經質の子供であると、手のつけられぬやうな我儘者になるのであります。而してかういふ子供の兩親は、やはり神經質の者でありますから、いろ〳〵と子供の事に就いて取越し苦勞をして、益々子供の神經を過敏にさせます。かういふ種類の子供は、社

會が複雜になつて、世の中の人の神經が追に苛々して來る爲に、だん／＼増加して行くやうであります誠に邦家の前途の爲に憂ふ可き現象であると思ひます。かういふ小兒が少し大きくなると、家庭に於ける暴君の資格で、誰の言ふ事も利き入れないやうになり、病氣にでもなつたら最期、養生などは絶對に出來ないのであります抑〻かゝる不幸なる結果を生ずるのは、敎育といふものは幼稚園から初まるもののやうに心得、幼い子供に人格を認めないのが一原因であると思ふ。どうか今後はチエルニー氏の名言に從つて、生れ落るから此點に注意したいと思ふ。

抄録

乳兒と玩具（中村東作述、大日本私立衛生會雜誌第四二五號）

乳兒時代の小兒に持たせる玩具は幼稚園時代になつて玩ぶものとは大分趣を異にするから、從つて玩具の選擇に就ては其の適否を能く／＼考へなければなりません。

乳兒に持たせる玩具の選擇に就いての條件としては、輕るいもの破損ないもの、危險でないもの、是れ丈が揃つて居なければ不可ません、「セルロイド」製のものなら多くは適當しませう。

近頃の著色の原料に就いては、有害性の著色料取締規則を發布されてある故大抵有害なる色素で塗つた玩具はないやうに思ふ然し價の廉い、粗製の玩具で黄く塗つたものはまづ手を附けぬ方が安全であります。

彼の張子の首振りの虎がある、之れは黄く塗るために、石黄（ピクリン酸）が含んで居る。その外「オウラミン」色素を用ゐるので危險があります、先づ黄く塗つてある玩具は、避ける方が危險がありません。

夫れから持たせて惡いのは犬張子だとか、又は張子の馬だとか、張子の金太郎だとか斯ういふ類の玩

具は、土製で上に「ゴフン」を塗つてありますから、斯ういふ類のものは獨り乳兒の玩具として適當せざるばかりでなく、一般の玩具類から見ても先づ宜しくないのです。

乳兒は玩具を嘗めるから、と云ふのでは陶器製のものが宜からうと申す方もありますが、淸水燒とか瀨戸燒とか云ふので、人形や魚の類が出來て居ますのは、何うも目方が重く出來て居るのと、そして冷たいので不適當であります。

私は自分の子供に就いて、乳兒時代に何ういふ玩具を持たせたら最も適當なるやを苦心致しました末小さな土瓶の蓋が一番宜いやうに思つて、夫れを持たせたのです。御承知の通り土瓶の蓋は、瀨戸ですから、乳兒が之れを口にして嘗めたところが危險がありませんし夫れに拭けば淸潔になります、重さも小さい土瓶の蓋なら、左したる事は御座いません。然し唯之ればかりの點では別に土瓶の蓋を持たせずとも何か他にも之れ丈けの特點を備へたものはありませうが、唯私の可いと云ふ譯は土瓶の蓋だと、興味ある色々の遊ばせ方が出來ます

先づ之れを獨樂の如く取手を下にして廻せば、クルクルと善く廻ります、又細い絲を取手にまきつけて上下に絲を繰りながら之れを廻すことも出來ます夫れから又取手のところを乳兒は乳首のやうに口へあてゝチユウ／＼吸ひます。

僅かの事で破損ると云ふやうな憂ひもなければ、輕くして、淸潔にすることは容易く出來るし、又土瓶の蓋ですと土瓶は破損て仕舞ひ、蓋だけ廢物になつて居るのは、何處の御家庭にも御座いませう、私は此の土瓶の蓋を最も興味ある乳兒の玩具として持たせました。

總て玩具は小兒の年齡により、相應したものを持たせる事は、最も必要なことです、そして小兒は永く同じ玩具を玩ぶよりも、折々變つた品を喜びます故、品を取代へては持たせ、厭きた玩具は一先づ親の手元へ收めて置き、他日又取出して持たせれば興

味をもつて再び之れを玩ぶやうになります、心理上精神上から見ても年齢相應の玩具は必要です

麵麭の良否 (田邊玄平述、國民新聞)

製造法を誤つた酸化麵麭は之れを食用すれば、胃中で異狀の醱酵を起し、俗に胸やけと稱する輕微の疾患を感じ、度を重ぬれば遂に胃酸液過多症を起すもので有る、元來麵麭の成分は米飯と等しく、其の大部分が澱粉で成立して居るから、之を咀嚼すれば唾液との關係上自然甘味を生じ唾液の分泌を盛ならしめ容易に嚥下せらるゝ物で有るのに、酸味と酸臭を帶びた酸化麵麭は却つて唾液の分泌を阻止し如何に咀嚼するも、口腔中に殘留物を止め、砂糖、ジャム等の如き副食物で唾液の分泌を促進しなければ、容易に嚥下し得られ無い、是は非衞生的食品を嫌惡する動物通有の本能作用から來るので有つて酸化麵麭は斯して風味の點から容易に判別する事が出來る。一方外觀上からしても酸化麵麭は美しい鳶色に焦燒す事が出來ぬ、隨つて麵麭製造業者は斯かる缺點を隱蔽する爲め、麵麭の頭部に牛乳或は砂糖水の如きものを塗抹して、僅かに頭部を鳶色に焦燒すが、此手段を施こすに由なき側面は依然として白色を呈し此處に酸化麵麭の本性を暴露して居るから是れに依りて容易に麵麭の良否を識別する事が出來る。

膳棚と米櫃の改良 (婦人雜誌)

今日の日本の家庭を見まして西洋の家庭と非常に違つてゐますのは全體が薄暗くて光線の具合が如何にも惡く、自然陰氣で衞生上からも大層好くない事が多う御座います。

眞暗な棚の中　早い話が膳戸棚や庭戸棚に致しましても、硝子戸の入つたのを用ひて居るのは一般に尠く、膳戸棚は時として硝子戸の物もありますが、庭戸棚となります、殆んど板戸と相場が定つたものの如うで御座います、而も其の中に日々使用する食

器を入れたり或は煮炊の器具を入れてゐるので御座いますが、外部からは中に何が入つてゐるか一向分りませんと云ふ有樣です、不便でもあり且又中がどれ程汚れてゐるかなど〻云ふ事も分りません。

硝子障子に限る　西洋では戸棚は總て硝子戸にしてゐますので、從つて戸棚中の全體が明るく、中に少々塵埃が溜つてゐても外部から好く見え透きますから、自然と掃除が行き届きます、之が若し板戸でありますと塵埃が溜つてゐても戸を開けないと分らないのみか、鼠の糞や油蟲の糞なんかゞ落ちてゐるのにも氣が付かない事があつて、大層不潔なばかりではなく、夫れが爲め知らず識らずの間に惡い病氣に罹る虞などが御座います。夫れですから戸棚は全部硝子戸に改めて貰ひたいと思ひます。

米櫃は亞鉛製　夫れから米櫃はども從來は何れも木製の物を用ひてゐるやうですが、木製の物は鼠に嚙られる憂ひがあるばかりでなく、板と板との繼目に隙が出來て、其所から油蟲や其の他の蟲類が遠慮なく出入し、衛生上甚だ宜しくありませんから之は矢張亞鉛製の物を御使用になる法が宜しからうと存じます、亞鉛製でありますと斯樣な心配がないのみか、持運びにる頗る便利で御座いまして、梅雨時なんかはお米に濕氣を含ませると云ふ虞も御座いませんで誠に結構かと思ひます。

罐詰食品（ユース、コムパニオン）

一旦罐詰食物の蓋を開きて後若干時間其儘に打ち棄て置きたらんには、其食物腐敗して食用に適すべからずと、普通一般に信用せらるゝ所なり、然るに近刊の米國食物研究雜誌に左記の如き事實を記載せり、曰く近頃の研究の結果として右の如き信用の全く根據なきことを證明したり、彼の牛乳の如きは錫製の罐に入れたる儘若干時間若くは一兩日打ち棄て置くも更に其品質を變ずることあらざるなり、是れは實地試驗の結果として疑ふべからざる事實なり玉蜀黍、豌豆、林檎、「パインアップル」、南瓜等の罐

詰は之を開いて後若干時間若くは兩三日間其儘になし置くも其味と香氣とは更に變せざるなり、化學的試驗の結果として多少の酸味は加はることあるも其容器の材料たる錫及鐵の成分の存することは極めて微少ならずんばあらず、勿論罐を切り開いて其切口のギザ〳〵したる儘久しく其儘になし置かんは然るべきことにあらず、されど世人の想像せるが如く危險なるものにあらずと（大日本私立衞生會雜誌）



雜報

○恩賜の繃帶

皇后陛下には去月十三日皇后宮職を經て我が海軍の西伯利派遣軍傷兵に對し　陛下御自製の繃帶御下賜の御沙汰あらせられたるを以て鹿野海軍屬これを奉戴して同日出發字品に赴き同地より西伯利に向りと

○看護婦救護班增遣

日本赤十字社にては今回第二回臨時看護婦救護班を組織して浦鹽に派遣することゝし、各支部に對し動員中なりしが、醫學士久留俊二氏を班長とし、醫員上瀧鬼氏、香川、岸野兩看護婦長以下看護婦二十名を本社に召集し、去月十八日社長石黑男の訓示あり、一行は同二十五日午後九時東京驛發にて敦賀を經て浦鹽に向へる筈。

○東京府の產婆試驗問題

本年第二回の東京府產婆試驗甲乙兩組（一組二百七十名）の問題左の如し、實地試驗は先月二十一日より施行せられたり。

甲組（十月九日、十日）

一、ヘーガル氏妊娠徵候とは如何。二、分娩中內診により兒頭の高さを定むる法如何。三、初生兒の人工榮養に就て知る所を記せ。四、葡萄狀鬼胎の診斷。五、早期破水とは如何及び之れに伴ふ症狀に就て記せ。六、產褥熱の原因及び豫防法。

乙組（十一日、十二日）

一、妊娠に就て記せ。二、腹壓を許す時期及び會陰保護の時期。三、褥婦及び初生兒の鑑定。四、妊娠の經過中に於ける出血の原因。五、雙胎分娩の際に於ける產婆の注意。六、產褥熱の徵候。

○警視廳看護婦試驗問題

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

十月三、四、五の三日間東京府廳内産婆試驗場にて擧行せられたる同試驗問題左の如し。
因に受驗者は凡て六百五十名なりき。

甲組（十月三日）

一、胃の位置、構造及び機能、二、褥瘡の豫防及び處置、三、（イ）空氣の成分を記せ、（ロ）腸窒扶私患者の病毒排泄經路、四、傳染病患者の用ひたる汚物の始末を如何にすべきや、五、乳腺炎切開に要する器械の名稱及び切開後の繃帶方法、六、癲癇發作時の注意

乙組（十月十四日）

一、呼吸器各部の名稱及び呼吸の生的作用を記せ、二、病理室に於ける換氣の必要なる理由及び其の方法、三、水と傳染病との關係、四、傳染病毒に汚染したる土地の消毒法、五、（イ）吸入器の種類及び使用法、（ロ）卷軸帶の製法、六、凍傷の方法

丙組（十月五日）

一、泌尿器各部の名稱と其の機能とを記せ、二、不眠症ある患者の看護、三、（イ）衣服の必要なる理由、（ロ）實扶垤利亞の傳染經路、四、「フォルマリン」水使用に適するものと否らざるものとを區別せよ、五、（イ）尿檢査に要する器械の名稱、（ロ）三角巾の製法及び應用、六、止血方法に就て述べよ

○看護婦養成所指定

大正四年六月内務省令第九號看護婦規則第二條に依り九月廿四日地方長官の指定したる養成所左の如し
北海道室蘭區常盤町　區立室蘭病院看護婦養成所

○東京市施療病院看護婦養成所卒業式

同病院看護婦養成所にては去月五日卒業式を擧行したるが、卒業生は甲組九名、乙組五名、計十四名にして、綿野さく、藤沼はつ、清水けいの三名は成績優等の故を以て銀時計一個宛を授與されたり

會報

○本會例會

去十月十二日午後一時半より本郷區湯島なる東京高等女學校附屬作樂館に於て本會十月例會を開き、『教育上及醫學上注意すべき兒童の性癖に就て』と題する有益なる講話ありたり、本號育兒欄に掲載されたるものは其の大要なり、右終りて暫く歡談の後散會したるは午後四時なりき、當日出席の主なる役員を記すれば左の如し。

濱尾作子　岡田德子　高木錄子
入澤常子　緒方悅子　田村きよ子
山口貞子　古市幸子　守屋千代子（以上出席順）

○入會者

○事務所申込ミ

神戸市北長狹通四丁目一坪田十郎方　通常　岸本福代
熊本縣阿蘇郡内牧町　通常　久富ゆき子

○轉居

府下より愛知豐橋市新町四十八番戸へ　橋本よし子
佐賀より佐賀市與賀町精小路二十九へ　水町濱子
神戸より神戸市笠松通七丁目三菱社宅へ　飯動和香子
小石川區より大阪市北區堂島濱口通二ノ十一へ　齋藤たけ子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁　東伏見宮妃周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

幹事	鳩山春子	同	長谷川仲子
同	岡田德子	同	高木鐐子
同	山木多穂子	同	三浦敎子
同	松平芳子		
評議員	入澤常子	同	羽田三緒子
同	濱田捨子	同	服部繁子
同	原みつ子	同	仁禮壽賀子
同	西舛子	同	土肥多越子
同	緒方悅子	同	岡山とし子
同	小川孝子	同	男爵母堂 加藤鈴子
同	片山龜子	同	吉岡彌生子
同	丹波貞子	同	高橋孝子
同	田村きよ子	同	武田貫子
同	鶴原誠子	同	男爵夫人 南部限子
同	中濱芳子	同	山口貞子
同	子爵母堂 松井正子	同	古市幸子
同	小松いさ子	同	近藤憲子
同	天野多喜子	同	岸澄子
同	菊池粂子	同	三宅藤子
同	宮本樂子	同	守屋千代子

大正七年十一月十七日印刷
大正七年十一月二十日發行

東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地
編輯者兼發行者　莊司秋次郎

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷者　櫻井新三郎

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所　合資會社　杏林舍

東京市本郷區駒込千駄木町五十番地
發行所　私立大日本婦人衛生會事務所
（振替東京一〇六〇〇番）

賣捌所
東京市本郷區龍岡町　吐鳳堂
同市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鎗屋町　良明堂
同市本郷區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店
京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京日本橋區吳服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本郷區本富士町　盛春堂
名古屋市榮町六丁目　丸善書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第三百四十六號 大正八年三月二十五日發行



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN